

僕の住民監査請求 第三部 猜疑篇

中 相作

そこそこあやしいかんじやさかい

「二〇〇六年七月二十六日」

「どないしました」

「名張まちなか再生委員会歴史拠点整備

プロジェクト会合」

「それがどないしたんですか」

「確認決定事項」

「確認とか決定とかいったいなんの話な

んですか」

「すなわち『細川邸の実施設計予算を平

成18年度に繰り越した旨の報告を行い、

今年度は「NPOなばりマネジメント委

員会」を設立し、三重大学教授浦山先生

を中心に、細川邸の最終設計方針を決め、

今年度内に実施設計を完了し、工事発注

することを報告・確定した』みたいな」

「君いったい何を読んでるねん」

「公文書です」

「もう少し親切に説明できませんか」

「名張市に対する公文書公開請求によっ

て入手した名張まちなか再生委員会の議

事録にもとづいてお送りしております」

「その会合がどうかしたんですか」

「いま読んだとおりです。NPOなばり

マネジメント委員会ゆうのをつくって三

重大学の先生を中心に細川邸の最終設計

方針を決めることが決まったんです」

「それやったらそれでよろしいがな」

「二〇〇六年六月十八日」

「今度はなんですねん」

「名張まちなか再生委員会二〇〇六年度

総会」

「それも公文書ですか」

「これは名張市のホームページで公開さ

れてる総会の資料ですけど」

「総会で何があったんですか」

「新年度の事業計画がまとまりました」

「そしたら細川邸の整備については」

「『細川邸改修等工事の実施』（仮称）

初瀬ものがたり交流館の維持管理運営内

容の検討』とか書いてありますね」

「ほなそれでよろしいがな」

「資料によればこの日の再生委員会の総

会でNPOなばり実行委員会ゆうのが設

置されたらしいんですけど」

「さっきゆうてたNPOとはちがう組織

なんですか」

「さっきのはNPOなばりマネジメント

委員会。総会で発足したのはNPOなば

り実行委員会」

「例によってややこしい話ですな」

「NPOとか委員会とかあほほど結成さ

れてほんまにややこしい話なんです」

「やっばりお役所の病気ですか」

「お役所の病気が官民合同組織に感染し

たんでしょうね」

「はしかやないんですから」

「それでまあ二〇〇六年度総会が去年の六月十八日に開かれまして」

「せやからそれがどうしたんですか」

「そのあと七月二十六日の歴史拠点整備プロジェクトの会合でNPOなぶりマネジメント委員会をつくることが報告され確定されました」

「三重大大学の先生に中心になっていただいて細川邸の最終設計方針を決めることになったわけですね」

「ちよつと変やと思いませんか」

「何がですねん」

「細川邸の整備は名張まちなか再生プランの目玉なんです」

「それはまあ君によれば最初に細川邸ありきという筋書きの話ですから」

「ところが歴史資料館として整備しますというプランが二転三転」

「初瀬街道からくり館」とか「初瀬ものがたり交流館」とか

「つまり細川邸をどうするのかという話が全然まとまってる状態で二〇〇六年度総会を迎えたんです」

「ちよつとなさけない話ですけどね」

「その大切な目玉である細川邸のためにNPOをつくったり三重大大学の先生にご出馬いただいたりするということは」

「ゆうたら最重要案件でしょうね」

「それやったらその案件は総会にはかるのが筋やと思いませんか」

「いわれてみたらそうですね」

「ところが実際には総会の議案としてあげられてないんです」

「一か月ちよつとたつてから歴史拠点整備プロジェクトの会合でかなり唐突に説明があった感じですね」

「NPOなぶりマネジメント委員会とか三重大大学の先生のこととは総会の時点ですでに決まってると思うんですけど」

「それは単なる憶測ですがな」

「でもこの二〇〇六年度総会にはまだあやしげなことがありますね」

「何があやしいんですか」

「再生委員会の規約が改正されました」

「そんなん普通にあることですがな」

「まず新しい条文がひとつ加えられたんですけど」

「どんなんですか」

「『第4条 委員会は、必要に応じて若干名の参与を置くことができる』」

「参与が必要になったわけですね」

「けど総会の資料を見るかぎりどうもおかしいんです」

「何がおかしいんですか」

「二〇〇六年度の総会で参与というポストが新設されたゆうのに二〇〇五年度にも参与がいたことになってるんです」

「ほんまですか」

「総会資料の名簿には両年度の参与のお名前がずらずらと並んでますから」

「どなたですねん」

「二〇〇五年度は名張まちなかにゆかりの深い市議会議員の先生が四名様」

「二〇〇六年度は」

「その四名様プラス名張まちなか再生委員会の初代委員長一名様ですね」

「委員長さん退任されたんですか」

「ちよつといじめすぎたかなと僕も反省してるんですけど」

「いじめで退任しますかいな」

「そんなことはどうでもええんです」

「ほかにも何かあるんですか」

「再生委員会の役員会にかんする規約も改正されました」

「役員会といいますと」

「第六条に『委員会の活動を円滑に運営するため、役員会を設置する』と定められてるんですけどね」

「何をするためのものなんですか」

「第六条の二に『役員会が行う活動は次のとおりとする。(1) 名張まちなか再生プラン全体の執行管理に関すること。

(2) 再生整備プロジェクト全体の活動、事業調整及び推進に関すること。(3) 再生整備プロジェクトの事業間調整に関すること』ゆうて書いてあります」

「それで何が改正されました」

「このあとに第六条の三ゆうのが新しく加えられました」

「どんなんですねん」

「『役員会は、必要に応じて専門部会等を置くことができる』」

「それに何か問題があるんですか」

「役員会だけの判断で専門部会なんかを設置できるようになったんです」

「問題ないのちがいますか」

「だいたい規約の改正ゆうのは必要に迫られて行われるものなんですね」

「たとえば退任した委員長さんのために参与というポストをつくるとかです」

「ですからこの場合も専門部会をつくる必要があったから新しい規約を加えたはずなんです」

「ということは二〇〇六年度総会の規約改正の時点で専門部会をつくることが決まったわけですか」

「当然そうなりますね」

「そしたら専門部会てなんですかねん」

「NPOしか思い浮かびません」

「NPOなばりマネジメント委員会のことですか」

「そのNPOを役員会だけの判断で自由につくれるようにしたというのが規約改正のねらいでしょう」

「なんでそんなことするんですか」

「それはわかりませんがとにかく総会にはかることなくNPOを発足させることが可能になったんです」

「それで総会から一か月ほどたった歴史拠点整備プロジェクトの会合で」

「議事録に記録されてるとおり『今年度はNPOなばりマネジメント委員会』

を設立し、三重大学教授浦山先生を中心に、細川邸の最終設計方針を決め、今年度内に実施設計を完了し、工事発注することを報告・確定した』ゆうことになったわけなんですかね」

「NPOなばりマネジメント委員会を発足させることは既定の事実として報告されただけなんですかね」

「NPOのこととか三重大学のことは役員会で決定されてその結果がこの日の会合で伝えられたということです」

「役員会の構成はどうなってますねん」

「委員会の規約によりますと役員と名のつく人は委員長と副委員長と再生整備プロジェクトチーフです」

「何人いてはりますねん」

「委員長一名様に副委員長三名様にチーフ五名様ゆうようなことでして」

「その九人だけで勝手に決めることができるわけですか」

「げんに勝手に決めましたから」

「どうも釈然としませんね」

「はつきりしてるのは細川邸整備のすべ
てがNPOなばりマネジメント委員会に
掌握されてしまったということですよ」

「そのNPOが好きならいいですよ」

「それ以上にはつきりしてるのはこれは
無茶苦茶おかしな話やゆうことでして」

「たしかにおかしい感じですけど具体的
にどこがおかしいんですか」

「だいたいNPOなばりマネジメント委
員会ゆうのがなぜ必要なのか」

「必要ないんですか」

「細川邸のことはそもそも名張まちなか
再生委員会が検討していたわけです」

「歴史資料館構想を白紙に戻してまた最
初から協議してきたわけですけど」

「それならば最後まで自分たちの主体性
と責任において検討するべきなんです」

「けど結論が出なかつたわけですから」

「それやったら自分たちの無能力を素直
に認めなあきませんがな」

「認めてどないしますねん」

「まちなか再生委員会発足以来二年の歳
月をかけて熟慮を重ねてまいりましたが
結局あきまへんのでほなさいならと」

「そんなわけには行きませんか」

「せやからNPOつくつたゆうことなん
でしょうけどそれがおかしいんです」

「どうおかしいんですか」

「かりに細川邸の実施設設計に先だつてな
んらかの研究が必要なのであれば」

「必要やつたみたいですけど」

「まちなか再生委員会がそのらの研究機
関と普通に契約を結んだらええんです」

「普通に契約といいますと」

「たとえば設計の場合は設計会社と契約
する。設計会社が設計して図面を提出す
る。契約が履行される。はいおしまい」

「三重大学の場合はちがうんですか」

「契約を結んだそのいっぽうで委員会が
新たにNPOを組織してますがな」

「わざわざNPOをつくらなあかん必要
性はないみたいですけどね」

「委員会は研究機関から研究の結果をう
けとつてその成果を自分たちの協議に活
かしたらええだけの話なんです」

「せやのになぜNPOをつくつたのか」

「それを知るために僕は名張市に対して
公文書公開請求を行いました」

「三重大学の報告書のことですか」

「そうです。三重大学浦山研究室から提
出された受託研究の報告書『歴史・交流
拠点としての旧細川邸改修に向けて』」

「NPOのことが出てきますか」

『ワークシヨップ編』の『はじめに』
に『2003年度に策定された名張地区
既成市街地再生計画「名張まちなか再生
プラン」において、旧細川邸を改修し、
歴史・交流拠点として整備することが提
案されている。2005年6月のまちな
か再生委員会総会においてNPOなばり
実行委員会の設立が認められ、同役員会
においてNPOなばり実行委員会に対し
て旧細川邸の運営および改修案を検討す
ることが付託された。そして、NPOな
ばり実行委員会の世話人会において、N
POなばり実行委員会の代表者や名張市
職員、市民から構成されるマネジメント
委員会において具体的な改修計画案を検
討することが了承された』と書いてあり
ます。ただし引用文中に記された年度は
すべて誤りですから信用しないでね」

「それにしてもややこしい話ですな」

ちよつとついついたらこのざまか

「ほんまにややこしい話なんです」

「話の流れをたどるのがたいへんです」

「そんな君のためにこの報告書にもとづいて経過を整理してみます」

「とにかくこれともとは名張まちなか再生委員会の話なんです」

「その再生委員会の二〇〇六年度総会でNPOなばり実行委員会を設立することが決まったんです」

「委員会とは別にNPOができました」

「そして細川邸にかんする検討はいつさいそのNPOなばり実行委員会に付託するというのが再生委員会の内部組織である役員会で決定されました」

「要するに委員会からNPOに細川邸のことが丸投げされたわけですね」

「丸投げされたNPOなばり実行委員会は世話人会という会合を開きました」

「そんな会合ほんまにあるんですか」

「そのへんがあいまいなんですけどどこにかくその席で細川邸については『マネジメント委員会において具体的な改修計画案を検討することが了承された』と」

「それでそのマネジメント委員会の構成はどんなにかといいますと」

「『NPOなばり実行委員会の代表者や名張市職員、市民から構成される』と」

「報告書にはそう書いてあるそうですけどちよつとおかしいことないですか」

「このプランにかんしておかしいことやったら死ぬほどあるわけなんですけど」

「つまり去年七月の歴史拠点整備プロジェクトの会合でNPOなばりマネジメント委員会を設立して三重大の先生を中心に細川邸の最終設計方針を決めることが確定されたゆうわけですね」

「議事録にそう書いてあります」

「ところが報告書の説明では三重大の先生が委員会に入ってませんか」

「その点は報告書の別のとこにマネジメント委員会の構成が書かれてましてね」

「どんな構成ですね」

「NPOなばり実行委員会六名様と名張市都市環境部二名様ゆうことですね」

「三重大側はどうですね」

「三重大大学院工学研究科建築学専攻浦山研究室五名様は事務局ゆうことで」

「その事務局の五人の人はマネジメント委員会のメンバーに含まれるんですか」

「そのへんは微妙でしょうね」

「なんで微妙なんですか」

「再生委員会側と三重大側で筋書きにくいちがいがあるみたいなんです」

「筋書きがあるんですか」

「再生委員会の議事録によればマネジメント委員会はNPO組織なんですけど」

「三重大の報告書ではNPOなばり実行委員会の内部組織みたいな感じですね」

「でもそんな細かいことは別にしてじつにはつきりしてることがあるんです」

「何がつきりしてますねん」

「この報告書のために名張市民の税金をつかう必要はまったくないんです」

「なんでそうなってしまふんですか」

「名張市が百四十九万九千円の損害をこうむりしこと吟味の結果明白なり」

「なんですもんいきなりお白州のお奉行さまみたいになってからに」

「その罪科言語道断にして許しがたし。よって住民監査請求に付するものなり」

「ここで住民監査請求が出てきますか」

「君この理屈がわかりますか」

「わかるようなわからないような」

「たしかに理解しにくい話ではありますのでちよつと整理してみますと」

「きょうはなんや整理ばつかりですな」

「まず名張市には細川邸の改修活用という年来の課題があつたわけです」

「それで国のまちづくり交付金をあてにしてその課題に着手したわけですね」

「細川邸をどんな施設にすればいいか。

名張市はその検討を名張地区既成市街地再生計画策定委員会にゆだねました」

「それで歴史資料館にしましょうと結論が出たわけですけど」

「その結論を名張まちなか再生委員会が白紙に戻してしまいました」

「ですから今度は再生委員会が細川邸について再検討したんですけど活用策を考

えることができませんでした」

「普通やったらここで終わりです」

「終わりといひますと」

「再生委員会の無能力は明らかですから委員会は細川邸から手を引くべきです」

「まあたしかに無能力ですね」

「しかも細川邸を整備してみたところで名張まちなかの再生なんか無理やでと」

「多少でも事情を知ってる市民はいまやそんなふうに感じてゐるみたいですね」

「せやから名張市は細川邸の整備なんかもうやめるべきなんです」

「けどあと戻りはできませんがな」

「そうなんです。まちづくり交付金からみのタイムリミットもありますから関係者は必死で話を進めるわけなんです」

「タイムリミットでいつなんですか」

「二〇〇六年度末までに細川邸の実施設計を終えないことにはアウトやと」

「それでNPOとか三重大学の先生とかを総動員したわけですか」

「今年の三月末に実施設計完了ゆうとこまでこぎつけたんですけどこんなんもう

ありえへんぐらいおかしな話なんです」

「どんな施設として利用するかも決まっ

てないのに実施設計ができたゆうんですからほんまにおかしな話ですね」

「そのおかしさにはあえて目をつむつたとしてもまだおかしな点があるんです」

「どんな点ですね」

「さつきもいきましたけど細川邸整備のために三重大学なりどこなりに研究を委託する必要があるのであれば」

「普通に再生委員会が研究機関と契約を結ぶべきやゆうのが君の意見でしたね」

「ところが実際には再生委員会からNPOなばり実行委員会に細川邸のことが丸

投げされてしまったんです」

「報告書にそう書いてありました」

「つまりそこから先はNPOなばり実行委員会が判断することになります」

「それでまたそのNPOが世話人とかの判断でマネジメント委員会に細川邸のことを丸投げしたみたいでしてね」

「どこに丸投げしたとしてもそれはいうまでもなくNPOなばり実行委員会による独自の判断の結果なんです」

「NPOがみずから決めたことです」

「ですからその判断の結果なんらかの対

価を支払う必要が生じたとしてもそれはあくまでもそのNPOの問題であつてそ

の支払いに市民の税金を投じなければならぬ理由はどこにもありません」

「そうゆう理屈になるわけですか」

「つまりNPOなばり実行委員会は三重大学であろうと皇學館大学であろうとマサチューセツ工科大学であろうと」

「マサチューセツは遠すぎますやろ」

「いくらでも好きないようにそこらの大学とつるんでくれたらええんです」

「ただしそれはNPOによる判断であつて名張市は関係ないゆうことですか」

「NPO独自の判断で生じた支払い義務になんで税金がつかわれなあかんねん」

「でもあくまでも細川邸の整備に関連して生じた支払い義務ですから」

「それやったら再生委員会が三重大と直接契約したらんかゆう話ですがな」

「にもかかわらずなぜかNPOがあつちこつちにできてますからね」

「そのわけのわからんNPOがまったく勝手に決めたことなんですから」

「そしたらそのNPOゆうのはいったいどんなんですねん」

「再生委員会の総会で設置が承認されたNPOなばり実行委員会の会則は名張市のホームページに掲載されています」

「なんて書いてありますねん」

『第2条 委員会は、継続的かつ自立

可能なまちづくりの運営体制等の研究、実践を行い、まちなか再生に寄与することを目的とする』ゆうことですね」

「ほんまにわけがわかりませんな」

「つづきまして『第3条 委員会は、前条の目的を達成するため、旧細川邸を拠点に地域資源の活用および運営体制を見据え、必要な事業を行う』てなこと」

「どうゆうことですねん」

「僕にもようわかりませんけど要するに細川邸を拠点として名張まちなかの再生を進めますゆうようなことでしょうね」

「けどもう細川邸を整備してもどうにもならないということがある意味結論として出てるみたいな感じなんですから」

「せやから先走つてこんなNPOなばり実行委員会みたいなもんをつくる必要は全然なかつたんです」

「そのうえマネジメント委員会とか」

「正体不明の組織がきょうびのAV女優みたいにつぎつぎ出てきましてね」

「マネジメント委員会ゆうのもやっぱり必要のない組織なんですか」

「んなもんありまつかいな。あんな委員会の必要性なんか絶対ありません」

「だいたい議事録とか報告書とか読んでみてもそんな組織をつくつた理由がどこにも書かれてませんからね」

「NPOや委員会の設置にかんする報告はたしかに書かれてるんですけど」

「なぜそれをつくつたのかという理由はまったく明かされてないですから」

「しかし理由はどうあれ細川邸にかんする特権的な組織としてマネジメント委員会が人知れず発足していたというのはまぎれもない事実なんです」

「特権的な組織といいますと」

「誰からも邪魔されることなく細川邸を好きにしてしまえる組織のことです」

「けど君マネジメント委員会には名張市の職員の人も入ってましたがな」

「それがどうかしましたか」

「市の職員が加わっていたということは三重大の受託研究に税金で対価を支払う根拠になるのどちがうんですか」

「そんなことになるわけがないがな」

「なんでなるわけないんですか」

「いいですか君」

「なんですかねん」

「いくらくどくど説明してももうひとつ理解がとどきにくいみたいですから」

「ほんまに理解しにくわけですって」

「そんな君のために説明を加えますとまちなか再生委員会からNPOなぶり実行委員会へさらにはマネジメント委員会へという丸投げの構図にはかけらほどの合理性も正当性も見あたらないんです」

「たしかに意味不明の丸投げです」

「細川邸のことは当然のことながら再生委員会で協議するべきなんですけど」

「研究が必要やったら再生委員会から三重大学に依頼したらええわけですし」

「それをこそそそ規約を改正したりしてあたかも人目をはばかるかのように」

「そんな人聞きの悪いことを君」

「そしたら言葉を改めましてあたかも悪事を働くかのようにこっそりと結成されたのがマネジメント委員会なんです」

「たしかにこっそりでしたけどね」

「そのマネジメント委員会に名張市の職員が加わっていたということは」

「どうゆうことですねん」

「そんなもん職員というよりは名張市という自治体そのものが組織の自立性とか主体性とかをまったく理解できてないというこの証明にほかなりません」

「やっぱりなあなああのおずぶずぶですか」

「名張市としても細川邸整備という至上命令がありますから委員会側のおもわくに乗らざるをえないんでしょうけど」

「けどそれは君の見解ですがな結局」

「それがどないしました」

「この件にかんして名張市には名張市なりの主張もあることでしょうし」

「ですからそこのNPOの勝手な判断にもとづいて委託された研究に市民の税金を投じていいものかどうか」

「どないするゆうんですか」

「名張市の監査委員の先生おふたりにはつきり白黒つけてもらいますねん」

「そうゆう話になるわけですか」

「だいたいNPOみたいなもんは君」

「NPOがどうしたんですか」

「もちろん僕もすべてのNPOを頭から否定するわけではないんですけど」

「君はNPOが嫌いなんですか」

「やっぱりNPOやからゆうて意味もなく熱うなってる連中を見たらこいつら完全にあほやろなと思いますからね」

「そんなことありますかいな」

「でもたかがNPOのことで頭に血イのぼってる人間がいるんですから実際」

「それだけ熱心やゆうことですがな」

「恥ずかしいことないんですかね」

「NPOのどことが恥ずかしいんですか」

「けどNPOで頭に血イですよ」

「ええやないですか」

「ほな君いつペンNPOという字の頭にチという文字をのせてみなさい」

「それがどないしたんですか」

「それ声に出して読めますか」

「チNPO」

「君そんなんもう完全に男性性器の俗称になつてしもてますからね」

「なんでそないなるねん」

「君にはかけらほども品格というものがないのかこの恥知らず」

「品格のない恥知らずは君やがな」

(住民監査請求をめざす名張市民)